20（　）年８月職員会議資料（高等学校版）

**【不登校対策委員会だより No.５】**



　夏休みが終わり，いよいよ学校が再開しました。生徒が教室に戻ってきてくれましたが中には何となく元気がなかったり，何となく夏休み前と雰囲気が変わったりする生徒も見受けられます。様子の変化に気付いたら，その場でさりげなく声を掛けて，コミュニケーションをとりながら様子をうかがうようにしましょう。気になることがあれば，担任，部顧問，学年主任など近くの教員と早期に情報交換し，素早い対応につなげられるようにしましょう。

また，夏休み前に休みが続いていたり，別室登校が続いていたりした生徒の，欠課時数や欠席日数なども気になっている先生もいると思います。進級や卒業のことを考えると，「そろそろ教室で授業を受けられないか」と心配になる時期だと思います。では，どんなことを意識して本人に接すればよいのでしょうか？

**【　教室に向かう生徒に対し，教員ができることとは？　】**

久しぶりに登校してきたＡ君。先生が「ちょっと教室に行ってみない？」と誘うとＡ君は「はい」とうなずきました。教室に入り，一日を過ごしたＡ君。先生も帰りまで教室で過ごせたことに安心し「このまま，明日も頑張ろう！」と声を掛けました。さて，Ａ君はその日，どんな気持ちでいたと思いますか。少し考えてみましょう。

先生に誘われたから「はい」と言ったけど，最後までいられる自信はあまりないな･･･

休み時間は何をして過ごせばいいかな？独りで過ごすことになるだろうな…

勉強で分からないところがあったらどうしよう？もし，分からないのに指名されたらどうしよう？

みんなは，どんどん勉強が進んでいく。自分は，いつになったらみんなに追いつけるんだろう？



誰か自分に話しかけてくれるかな？でも，話しかけられたら，何て答えればいいだろう？

何とか，一日過ごせた…。疲れたなあ。先生は喜んでいたけど，もし「明日もおいで」って言われたらどうしよう？正直苦しいなぁ･･･

不登校の生徒が久しぶりに教室に入ることを決断するというのは，私たちの想像以上に勇気のいることで，心のエネルギーをかなり消耗しているかもしれません。そして，一日を全力で過ごし，心のエネルギーがほとんどなくなっている中で「このまま，明日も頑張ろう」と声を掛けられたら…

**【　教室復帰時のポイント①　～ブレーキをかける～】**

　教室復帰を始める時に学校側として大切なのは，本人の気持ちに寄り添い，時には**「ブレーキをかけてあげる」**ことです。周囲の目には「大丈夫だ」と見えても，本人の心のエネルギーは想像以上に減少している可能性があります。そこで，本人の学習状況，体力，友達との関わり方などに注

意を払い，どの授業に出るのか，何校時目まで出席するのかなど，本人とよく話し合いましょう。一度にたくさんの負担を掛けないようにし，少しずつ教室にいられる時間が増えるような支援を計画しましょう。

　ブレーキをかけるとはいえ，欠課時数や欠席日数の状況によっては，本人の心のエネルギーを十分に配慮する余裕はないかもしれません。進級や卒業ができるかどうかの瀬戸際になってきたら，やはり登校や授業への出席を促す声掛けをせざるを得ません。本人が過剰適応しているように見え，教師側がブレーキをかけたいと思っても，「あと○○日で規定をクリアするから，もう少し頑張ってもらおう」と思い，負担を承知で「明日も待ってるよ」と声掛けすることもあるかもしれません。

　その場合は，少しでもいいので，生徒の心のエネルギーが増えるような声掛けをしてあげましょう（不登校委員会だよりNo.３参照）。登校し授業を受けることができたら，そのことを心から労いましょう。「今日１日，本当によく乗り切ったね」，「○○さんが頑張っているのは，ちゃんと伝わっているからね」などと，本人の苦しい思いに寄り添いながら，その日に本人ができたことを認めるような言葉を本人に投げ掛けましょう。家庭でも不安や悩みを受け止めるような接し方をしてもらい，教員と保護者が連携すると支援の効果を高めることができます。将来的に本人が不登校経験を振り返った時に，「人生の糧となった」「重要な時間だった」と少しでも思えるように，今できる支援を行っていきましょう。

**【　教室復帰時のポイント②　～教室復帰する前のことを振り返る～　】**

教室登校が安定してきた後も，学校や家庭での様子や，本人との話などから無理なく登校できているのかを確認しましょう。登校が続き，本人に様子を聞くと「大丈夫です」と言われるため，教師側が「もう大丈夫だろう」と安心し，支援の手を緩めてしまうことがあります。しかし，ここで手を緩めてしまうと，再び不登校に戻ることもあります。教室復帰してからも，２～３か月は本人の様子を注意して観察することが大切です。たとえ学校では元気に見えても，帰宅後はぐったりとしていることがあるかもしれません。本人と話す機会を定期的に確保しながら，家庭との連携を大切にして本人の様子を丁寧に把握しましょう。何か気になる様子があったら，すぐに連絡をすることを事前に確認しておき，学校と家庭の間での円滑な情報共有を図りましょう。

学校復帰に至るまでの状態や気持ちを本人が話してきたら，どんな力が備わっているのかを本人に自覚させるチャンスになります。話にしっかりと耳を傾け，本人が自分の良さに気付けるように話を進めましょう。また，本人にとって周囲のどんな声掛けが支えになったのか，自分で大丈夫だと思えたのはどんな時かなども，その時にしか話してもらえない貴重な情報になります。その子はもちろん，他の不登校生徒を支援する際にも役に立つ大切なヒントが得られるかもしれませんので，丁寧に話を聞くようにしましょう。

不登校は，どんな学校にも，どんな生徒にも起こり得るものです。支援する際の土台である生徒理解を大切に，一人一人に適した支援を講じていきましょう！